

はばたこう 明日へ

巻頭言

教科書の改訂と 道徳教育の明日²

林 泰成 上越教育大学副学長

2年度 小学道徳 教科書のご紹介⁴

授業実践

武蔵村山市立第八小学校 「徳育科」の取り組み¹²

牧 一彦

低学年(第2学年)／清水 結子¹⁴

中学年(第3学年)／佐久間 周枝¹⁶

高学年(第5学年)／石原 元気¹⁸



教育出版

教科書の改訂と 道徳教育の明日

はやし やすなり

林 泰成

上越教育大学 副学長



世界市民的教養としての「特別の教科 道徳」

小学校における「特別の教科 道徳」が平成30年度にスタートして、早いものでもう1年がたとうとしています。

その間、あちらこちらで道徳授業の研修会や研究会、講演会や学会などが開催され、私もお声をかけていただき、いくつかの集まりに参加させていただきました。

いろいろな授業を拝見しますと、学習指導要領に記された「問題解決的な学習」を取り入れた討論型授業や、「道徳的行為に関する体験的な学習」としてのモラルスキルトレーニングを取り入れた授業はもとより、授業の冒頭にテーマ発問が設定された授業や、子どもの自由な思考を重視した授業など、従来なら道徳授業の方法としては批判されていたような授業スタイルが、新しい授業方法として紹介されたりしていました。この授業研究をめぐる活気ある状況は、私自身の経験では、この30～40年の間には見られなかったものです。

道徳教育は、他の教科領域と比べると、道徳的価値を教えるという点で特異な一面を有しており、政治的な立場から批判が生じやすいといえます。しかし、法律で定めるのが難しい人間的な関係性の潤滑

油として、道徳は、民主的な社会においても必要なものです。道徳は、いわば国民的教養として、いや、世界市民的教養として求められるものだといってもよいでしょう。みんなが納得できる形で、それを教えることが必要なのです。それが、「特別の教科 道徳」として、始まったのです。

2年度版教科書の始動

平成30年度から使用される小学校道徳科の教科書は、8社から出されました。それぞれに特色のある編集が行われましたが、一方で、共通する教材もありました。定番教材とよばれるようなものは、それぞれにすばらしい教材だからこそ、どこの出版社も掲載しておきたいと考えたのでしょう。

こうした教科書は、学校現場での使用によって鍛えられ、先生がたや子どもたちの声を反映して、よりよいものとして修正を加えていくのが一般的な道筋です。しかし、今回、小学校道徳科の教科書は、新たに平成30年度に検定を受け、元年度に採択が行われ、2年度には、新しい教科書を用いて授業が行われることになっています。

道徳科全面実施初年度の平成30年度が、次の検定の年であるということは、学校現場で実際に使っていたいただいた感想を十分に集められないままに編集

作業に入るということになります。

しかし、私たちは、初年次の教科書について、多くの先生がたのお声を集めました。わかりにくいという点は、改訂いたしました。一部は教材を入れ替えました。監修者・執筆者・編集者が意見交換し、議論をいたしました。そして、2年度版の教育出版の小学校道徳教科書ができあがりました。

教科書と「多面的・多角的」という視点

教科書には、子どもにとっても、そして教師にとっても、使いやすさが求められます。それは、新任の教師でも、ベテランでも、子どもたちに対して同じように道徳的価値を教えられるような教科書でなければなりません。しかし、他方で、子どもや教師が「この部分をもっと深く掘り下げたい」と考えたときに、子どもや教師のその探求心に応え、その追究に耐えうるものでもなければなりません。

学習指導要領の「特別の教科 道徳」の目標には、「物事を多面的・多角的に考え」という文言が入りました。これは、評価の際にも求められているものです。学習指導要領解説でも、「児童が多面的・多角的な見方へと発展させて」いるかどうかを丁寧に見取ることが求められています。

ということは、授業方法についても、子どもたちが「多面的・多角的に考え」ることができるような授業を展開する必要があるでしょう。

新しい教科書ではそうしたことも考えました。「この教材ならこの授業方法がよい」というような教材もありますが、教師用指導書に記された指導案とは違った形で展開することに耐えうる教材もたくさんあります。ベテランの先生がたには、ぜひ、そうした授業づくりにもチャレンジしていただきたいと思っています。

道徳教育の明日へ

最近ではマスコミでも、AI（人工知能）や、IoT（モノのインターネット）、ロボット、完全自動運転などの言葉をよく見かけるようになりました。こうした技術がさらに進歩し、全ての人とモノがつながる高度な情報社会を、政府は、Society 5.0という言葉を使って、情報社会である Society 4.0の後に来るべき未来社会として描いています。

技術の進歩はめざましく、現在ある職業の何割かがなくなるとか、「なくなる職業ワースト10」などの言葉もネット上に出ています。SF映画「ターミネーター」で描かれているような、人工知能やロボットに支配されたデストピアの世界が実現するのではないかと不安な気持ちにもなります。

しかし、考えてみれば、高度な技術革新の前に、私たち人間はまだ、人間性とか何か、道徳性とは何か、というようなことについてさえ、十分な定義を得ていないように思います。定義されていないものを技術的に作り上げるということは不可能なのではないでしょうか。

言いかえれば、「考え、議論する道徳」とか、「多面的・多角的な道徳」とかが主張されているということが、Society 5.0という未来社会の中で、人間が生き延びていくための手がかりになるとはいえないでしょうか。人工知能搭載型のロボットではなく、人間にしか取り組めない領域はまだ意外にたくさんあるのではないかと思います。

子どもたちとともに、考え、議論し、多面的・多角的なものの見方を取り入れ、「唯一絶対の正解」ではなく、多くの者が合意できる「納得解」を見だし、社会を構築し、それを持続していく。そのための1ステップとして2年度版の教育出版の小学校道徳教科書がある、と私たちは自負しています。

2年度 小学道德 教科書のご案内

現在お使いいただいている教科書『小学道德 はばたこう明日へ』が、新しくなりました。
改訂され、さらに使いやすくなった新版教科書の特色をご紹介します。

次代を生きる子どもたちのために

情報化社会の進歩や社会のグローバル化などによって社会状況が刻々と変化する中で、次代を生きる子どもたちは、多様な他者や社会と関わり、支え合いながら、自分自身で考えて選択を重ねながら生きていかなければなりません。

新しい道德教科書『はばたこう明日へ』には、「子どもたち一人一人が、多様な人々と関わりながら、自己を見つめ、まだ見ぬ世界へと大き

くはばたいていけるように」という思いをこめています。

次代を生きる子どもたちのために、「主体的、対話的で深い学び」や「考え、議論する道德」の授業を実現するためのさまざまな工夫をしています。

子どもたちが輝く明日を、いっしょにつくっていきましょう。



新しい教科書の 特色



1 考え、議論する道徳授業の実現

▶ 学習の流れがよくわかる教材構成

教材冒頭の内容項目アイコンやキャラクターによる導入によって、児童が興味・関心や問題意識をもって学習に向かうことができます。また、「手引き」は、「考えよう」「深めよう」で構成し、発問の数を精選することで、児童がしっかり考え、話し合えるようになっています。さらに、動作化や役割演技をとおして道徳的価値の理解を深める「やってみよう」、日常生活や他教科の学習へと発展する「つなげよう」も、適宜配置しています。

2 多様な教材による充実した学び

▶ 重点テーマと現代的課題、定番教材、人物教材

「いじめ問題」「生命の尊重」「情報モラル」を重点テーマに設定し、スパイラルな学習と発達段階に合わせた教材選定により、問題を自分事として捉え、考えを深めることができます。また、現代的な課題（食育、防災教育、福祉に関する教育、人権教育など）や定番教材、人物教材など、多様な教材を設定しました。

重点テーマのマーク

-  いじめをなくす
-  生命を尊重する
-  情報モラルを考える

3 学びを深め、積み重ねる

▶ 一年間を見通した教材配列と発達段階を考慮した各学年の構成

巻頭のオリエンテーションページによって、一時間の学習の流れが理解でき、巻末の「学びの記録」で一学期ごとの学習の記録をつけることができますようになっています。教師用指導書の「ワークシート編」を併用することで、きめ細かい記録も残すことができ、通知表や指導要録に評価を記入する際に役立てることができます。また、児童の興味・関心や発達段階に配慮した教材構成にしています（1・2年「物語教材」、3・4年「生活教材」、5・6年「人物教材」を中心とした構成など）。

新しい学びを実現する 教材構成(導入と手引き)

年間35時間(1年は34時間)の道徳の授業が、児童の興味・関心や問題意識をもって行われるように、学習の導入と手引きを工夫しました。

手引きの「考えよう」「深めよう」の発問の数を精選して「考え、議論する」時間を確保するとともに、「やってみよう」で体験的学習を取り入れたり、「つなげよう」で日常生活や他教科の学習につなげたりすることもできるようになっています。

学習の導入

The diagram illustrates the structure of a lesson introduction. It features a sample page from a textbook (p.28) and callouts explaining key elements:

- 内容項目の「ABCD」の視点を示すアイコン**: A red heart icon with a smiley face, indicating the perspective of the content item.
- 内容項目のキーワード**: The keyword "きそく正しい生活" (Rule-based correct life) is highlighted. Below it, a list of keywords is shown: 9 わたしだけの (Only for me), 8 教えて (Teach me), 7 るっぺ どうしたの (Ruppe, what's going on?).
- 教材名**: The title of the lesson is "きそく正しい生活" (Rule-based correct life).
- キャラクター「とりどり先生」の導入の問いかけ**: The character "Tori-dori Sensei" is introduced with a question: "学校や家での生活を思い出してみよう。" (Let's think back to our life at school or home).

2年 p.28

児童が、問題意識をもって学習に取り組むことができるので、学習効果の高まりが期待できます。

- *ねらいとする道徳的価値に対する問いかけ
- *教材内容に関する知識の確認

などで構成。

「考えよう」(授業の「展開」段階での活用)

一時間の授業で考えを深めるための発問。

- *登場人物の心情や行為の理由の問いかけ
- *教材のテーマを追究する問いかけ

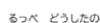
★……中心発問のマーク

ねらいとする道徳的価値に関わる発問。児童に「特に考えてほしいこと」として示しています。

「深めよう」(授業の「終末」段階での活用)

道徳的価値について、理解を深めるための
発問。

- * 道徳的価値を実現するよさや難しさを確認するための問いかけ
- * 道徳的価値に対して考えたことをまとめるための問いかけ



考えよう

● 目を おさえて しやがんだ
ぼんごさんを 見て、るつべは
どのような ことを かんがえて
いたでしょう。

★ るつべの こまった ところは、
どのような ところでしょう。 みんなで
話し合いましょう。

いくつかあるよね。



ふかめよう

みなさんには、るっぺのようなこまったところはありませんか。こまったようにこまったことにならないようにするには、自分^{じぶん}はどのようにしていこうと
おもいますか。

自分のことを
ふりかえって みよう。



31

「いやだね。」
とるつべが言ったとき、ぼんこさんが目を
おさえて
しゃがんでしまいました。

小林陽子 作

2年 p.31

「やってみよう」(適宜)

登場人物の心情や行為に共感し、道徳的価値についてより深く理解するための活動。

- *教材のある場面をそのまま演じる活動
(動作化)
- *教材に登場する人物の役割を即興的に演
じる活動(役割演技)

57

3年 p.57

やってみよう

自分だったらどんな返し方をするか、二人一組
 になってやってみましょう。

- 返す役の人は、どうしてそうやって返したのか理由をつたえましょう。
- 返される役の人は、返してもらったときの気持ちを つたえましょう。

相手のことを思い、
気持ちをこめた行いが
できるかな。



「つなげよう」(適宜)

授業で学んだことを日常生活や他教科の学習につなげる発問。

- *日常生活とつなげる問いかけ
*他教科や特別活動とつなげる問いかけ

出たあと、それぞれに、もしロレンゾが本
友人としてどうすべきだったのか、どうし

深めよう

の友情」を示すのに、三人の考え方とはちがうやり方がありますか。

つなげよう

が遠のき、おれは思ひて来たことを伝えるとき、おれが伝えにくい内容の場合、みなさんはどうしますか。

友達にしてほしいと、



35

5年 p.35

重点テーマ (いじめ問題, 生命の尊重, 情報モラル) と 現代的な課題, 定番教材, 人物教材

道徳教育に求められている「いじめ問題への対応」「生命の尊重」「情報モラル教育の充実」の三つを重点テーマとして設定し、教材化しています。また、食育、防災教育、福祉に関する教育、人権教育などの現代的な課題や評価の高い定番教材、先人や偉人のリアルな生き方に学ぶ人物教材など、多様な教材を設けています。

いじめ問題

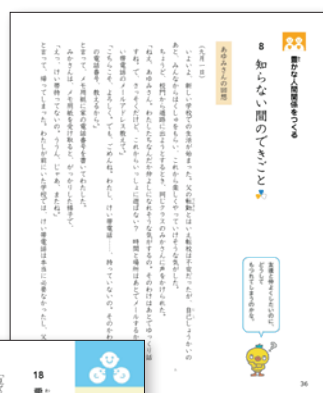
●スパイラルな学び

児童の発達段階を考慮したスパイラルな学習で、いじめを許さない強い心を育てます。

- 1・2年：「仲間はずし」などの身近な題材を取り上げています。
- 3・4年：「物かくしや陰口、ごっこ遊び」などの遊びにみえる行為を題材に、傍観者の立場からも教材化。
- 5・6年：直接的ないじめだけでなく、メールやネット上での情報の扱いがいじめにつながる例も教材化。



1年 p.100



5年 p.36



3年 p.74



4年 p.36

●拡大導入ページからの展開

いじめを自分事として捉えることによって、強い問題意識をもって取り組むことができます。

●人権について考える

人権教育の観点から、立場の違う者どうしが互いに理解・尊重し合う心を育むことができる教材です。



6年 p.84

生命の尊重

自分の誕生や成長をとおして、命のすばらしさに気づいたり、同年代の子どもの実話から、命のつながりや命を尊重したりする心を育てる教材など、命のさまざまな側面について考えられる教材を用意しました。



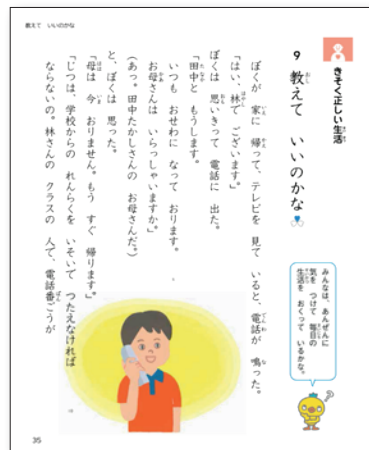
2年 p.104



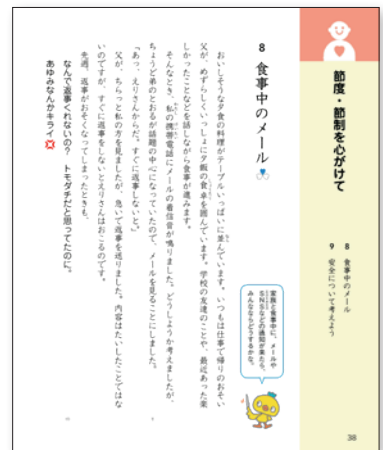
3年 p.102

情報モラル

低学年の児童にも個人情報の重要性がわかる教材を設けたり、高学年では、携帯電話を使う際にはルールやマナーが大切であることを学んだりする教材を用意するなど、発達段階に合わせた多様な教材で、情報モラルを身につけられます。



2年 p.35



6年 p.38

現代な課題, 定番教材, 人物教材



2年 p.126



2年 p.110



6年 p.110

●人物教材……野口英世

●現代的課題……食育に関する教材

●定番教材……『しあわせの王子』

年間を見通した配列、 発達段階を考慮した構成

巻頭や巻末の特設ページによって、一時間や一年間を見通した学習ができます。「何を」「どのようにして」学ぶのかを児童自身が認識しながら学ぶことができるので、学習効果が上がります。「学習の記録」では、児童が授業の記録をつけたり、学習を振り返ったりすることができます。また、指導者が通知表や指導要録作成の際に役立てることもできるようになっています。



5年 p.2・3



5年 p.4・5

オリエンテーション

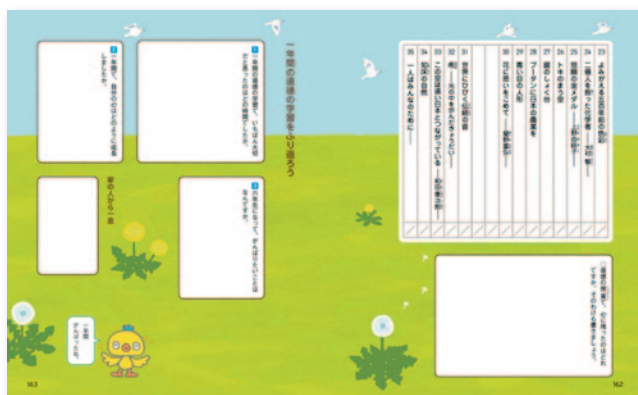
「道徳の学習が始まるよ」では、自分自身について考えたり、話し合うことの大切さについて考えます。児童の自発的な発言を促すオリエンテーションができます。

「道徳ではこんな学習をするよ」では、一時間の学習の流れがわかります。児童が、無理なく自然に見通しをもって学習することができるようになります。

振り返り

児童が、授業を受けた日を記入したり、学期末などに学習を振り返って書きこむことができるページです。

教師用指導書の「ワークシート編」と合わせて使用することで、年度末の評価の際のポートフォリオとして活用することもできます。



5年 p.162・163

教師用指導書の内容紹介

(内容・仕様等は予定です。)

全
学
年
共
通

『総説編』

「考え、議論する道德」を理解するための解説本です。教科書の基本方針と特色、道德教科化の背景、新学習指導要領の解説（目標、内容、道德教育の全体計画、年間指導計画、学習指導案、指導法、評価）、年間指導計画案・評価の視点、資料編で構成しています。

『解説・展開編』

研究授業にも対応できるよう、授業づくりのポイントを詳しく解説しています。教科書の「学びの手引き」にそった標準的な展開例のほかに、別の道德的価値や別の指導法で行う場合の展開例も掲載し、さらなる授業の充実が図れるようにしています。

『朱書編』

授業が円滑に進行するように、必要な情報をしぼりこんで掲載しています。青字と赤字を使い分け、青字は教材解説や授業展開の解説に、赤字は予想される児童の反応などを記述しています。

『ワークシート編（CD-ROM付）』

全教材のワークシートを掲載しています。付録のCD-ROMには、ワークシートデータ（ワード、一太郎、PDF）を収納していますので、児童の実態や教材観・指導観に合わせて内容を改変して使うことができます。

『デジタル資料集DVD-ROM』

年間指導計画作成資料、挿絵データ、写真データ、役割演技用お面データ、朗読音声データなど、道德授業で役立つさまざまなデータを収納しています。

『指導者用デジタル教科書DVD-ROM』

動画やアニメーションに加え、デジタルの特性を生かして授業をサポートする多彩な機能を搭載しています。

各
学
年
の
セ
ツ
ト
内
容

「まなびリンク」の内容紹介



教育出版の「まなびリンク」は、「なぜ?」「どうして?」「わかった!」「もっと知りたい!」という意欲を引き出し、「深い学び」へとつなげます。

「まなびリンク」のウェブサイトには、教科書巻末に掲載しているURLやQRコードからアクセスできます。

まなびリンク 道德トップページ

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/m-link/dotoku/top.html>

教育出版『小学道德 はばたこう明日へ』WEB特設ページのご案内

教育出版のウェブサイトには、小学道德の特設ページを開設しました。教科書の特色を詳しく解説した「編集の趣意と特色」などがご覧になれます。

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/2020shou/index.html>



武蔵村山市立第八小学校 「徳育科」の取り組み

まき かずひこ
牧 一彦

東京都武蔵村山市立第八小学校校長

武蔵村山市立第八小学校は、平成26～29年度文部科学省研究開発学校の指定を受け、道徳の教科化を実現すべく新教科「徳育科」を開発した。この教科は、「特別の教科 道徳」の指導内容（30時間）に、礼儀作法・マナーを核とした礼法の指導内容（15時間）を加えた45時間で構成している。

礼法の時間とは

礼法の時間では、次の10の指導内容を設定し、6年間のスパイラルな指導で繰り返し身につけることを目指している。

- ①気持ちのよい挨拶と基本姿勢
- ②心と身なりと物を整える態度
- ③先人の生き方に学ぶ姿勢
- ④時と場や目的に応じた言葉遣い・態度
- ⑤いじめを絶対に許さない態度
- ⑥温かい人間関係をつくる姿勢
- ⑦規則の尊重と公共の場の使い方
- ⑧公共の場での心配り
- ⑨よりよい家庭生活をつくる態度
- ⑩よりよい学校生活をつくる態度

「徳育科」で育てる児童像と4視点・7要素

第八小では、育てたい児童像を次のように設定し、それを実現するために、「徳育科」で育てる力を以下の4視点7要素としてまとめている。

低・中・高学年で育てたい児童像	
低学年	礼節を大切にし、約束やきまりを守り、集中して自分のことは自分でやり、人と仲よく助け合える児童。

中学年	礼節を大切にし、集団の約束やきまりを守り、いじめを許さず温かい人間関係を作り、みんなと一緒に活動することができる児童。
高学年	礼節を大切にし、社会のきまりを守りながら、自律的で責任のある行動を取り、主体的に集団や社会にはたらきかけることができる児童。

4視点	7要素	
自尊自律	①自身を制する力	価値を創造する力
	②自身を高める力	
共生協働	③礼儀作法を重んじる心	
	④いじめを許さず他人を思いやる心	
社会創造	⑤社会の一員としての自覚	
	⑥社会に主体的に参画する姿勢	
生命尊重	⑦生命を尊重する態度	

「自尊自律」は①と②からなり、「自分に厳しく」する児童を育成するための視点、「共生協働」は③と④からなり、「礼節を大切にし、人に優しく」する児童を育成するための視点、「社会創造」は⑤と⑥からなり、「主体的に集団や社会にはたらきかける」児童を育成するための視点、「生命尊重」は⑦であり、「自尊自律」「共生協働」「社会創造」をつなぐ視点である。そして、4視点7要素をまとめ「価値を創造する力」となる。

徳育科では、児童が自ら価値を見だし、その道徳的価値を理解したうえで、場面に応じて思考したり、判断したりしながら、価値を創造していく力を育んでいく。そして、「礼法の時間」を中心に、「何を知っているか」から「何ができるか」を軸とした学習をとおして、道徳的認識・理解力、道徳的思考・判断力、道徳的実践意欲・態度を育んでいくことを

ねらいとしている。

「徳育科」の評価

徳育科の目標である「道徳的認識・理解力」「道徳的思考・判断力」「道徳的実践意欲・態度」を育むために、毎回の授業で「知識・理解・技能」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」の三つの中から重点の観点を設定し、その授業でのねらいに即した指導と評価を行い、一体化を図っている。これは、学力の三要素である「基礎的・基本的な知識および技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」とも関連している。

さらに、第八小独自で開発した「評価の12視点」で、児童の考えの変容や深まりを見取っている。

評価の12視点	
知識・理解・技能(わかる)	①道徳的価値のよさや意義、大切さを理解している。 ②道徳的価値は大切であっても実現することの難しさを理解している。 ③自分と違う意見や立場を理解している。 ④自分自身との関わりの中で道徳的価値を理解している。 ⑤道徳的価値を体験的に理解している。
思考・判断・表現(考える)	⑥これまでの自分の経験を振り返ったり、体験をとおして考えたりしている。 ⑦さまざまな視点(行為の結果や原因、影響等)について考えている。 ⑧別の立場で考えている。 ⑨自律的に考えている。
関心・意欲・態度(つなぐ)	⑩道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めようとしている。 ⑪多様な考え方や感じ方にふれる中で自分の特徴を知り、自己をよりよくしていこうとしている。 ⑫これからの自分の生き方として実現していこうとしている。

「八小話し合い活動スタンダード」

道徳的諸価値を「自覚」するためには、考えることを通じて自分を含めた「他者」と対話し、議論することで「腑に落ちる」経験が必要である。その意味では、知識として道徳的諸価値を「知る」ことから「自覚する」へとつなげる方法が、「考え、議論

する道徳」といえる。そこで、議論のさせ方を次の6つの視点で分類・整理し、話し合い活動における工夫としてまとめることで、徳育科以外の学習でも活用できるようにしている。

八小話し合い活動スタンダード	
何のために	
1 目的	①互いの考えを丁寧に話し、聞き合う。 ②自分の考えを伝えること、多様な考えにふれることを、バランスよく取り入れる。 ③自分の考えと比較・関連づけながら、多様な考えにふれる。 ④自分の立場を明らかにして、主張し合う。 ⑤学級全体で考え、それぞれの立場を共有する。 ⑥学級の相互理解をもとに、相手を自分で選択して、意見を共有する。
いつ	
2 タイミング	①導入 ②中心発問のあと ③展開1の後半(考えさせたあと) ④展開2(役割演技をしたあと)
どうやって	
3 形態	①2人(ペア) ②3人グループ ③4～5人グループ ④学級を二分割 ⑤学級を複数分割 ⑥学級全体
4 構成	①同じ(似た)考えをもつ集団 ②異なる考えをもつ集団 ③同じ(似た)考え、異なる考えをもった子が混在している集団 ④問わない
5 表現方法	①発表(自分の考えを伝える) ②提案(相手に説明する) ③会話(相手の考えを聞く) ④討論(相手を説得する) ⑤提示(短冊、付箋、ホワイトボードなど)
必要なことは	
6 手だて	①発問(共感的、分析的、投影的、批判的など) ②板書(短冊、マトリックス、心情グラフなど) ③座席(グループ、「コ」の字など) ④教具(ICTなど) ⑤話型

(次ページからの学習指導案は、平成31年2月8日に発表したものに、加筆・修正をしたものである。)

第2学年

徳育科学習指導案

第2学年2組／児童数28名

授業者：教諭 清水 結子

1. 主題名 いつも正直に
2. 視点要素 自尊自律〔自身を制する力〕
内容項目 A「正直，誠実」
3. 学習内容 行為とその結果から，正直に生きること，素直に生きることの大切さについて考え，のびのびと生活することのよさを考えること。
4. 教材名 『金のおの』

5. 指導観

(1)価値観 (①ねらいとする道徳的価値，②研究主題との関連についての授業者の捉え方)

学習指導要領における「正直，誠実」の低学年の指導内容は、「うそをついたりごまかしをしたりしないで，素直に伸び伸びと生活すること。」である。第2学年の段階においては，いけないことをしてしまったときは素直に謝り，人の失敗を責めたり笑ったりせず，のびのびと生活できる態度を養うようにすることが求められる。

本時では，低学年の目ざす「礼節を大切に，約束やきまりを守り，集中して自分のことは自分でやり，人と仲よく助け合うことができる児童」（「第八小学校『徳育科』で育てたい児童像」）を育てるために，うそをついたり，ごまかしをしたりしないで，素直にのびのびと生活することの大切さを理解させたい。

(2)教材観 (①あらすじや使用教材の特質，②具体的な活用方法)

本教材は，「正直はよい。うそをつくことはだめ。」ということがわかりやすい教材である。うそをついてはいけないことは，児童はよくわかっている。しかし，日常生活ではさまざまな理由でうそをついてしまうことがある。授業をとおして，正直に行動しようとする気持ちを高めたい。そして，のびのびと

生活することのよさを考えさせたい。

6. 研究主題にせまるための手だて

(1)本時の指導 (ねらいにせまるためにどのように指導するか)

○教科書教材の特質に合わせた身近な問題場面の設定

教科書内容を理解させた後に，教師が用意した場面設定を中心に話し合う。

(2)本時の評価 (変容や深まりを見取るためにどのように評価するか)

○学習感想

うそをついたり，ごまかしをしたりしないで，素直にのびのびと生活することのよさについて，学習感想の記述内容を見取る。

(3)他教科等との関連 (実生活につなげるために本時の学習をどのように関連させるか)

具体的な学校生活の場面で本学習を想起させ，実生活につなげる。

《学校生活》トラブルが起きたり，きまりを守れなかったりしたときに，正直に言う。

(4)「考え，議論する」ための工夫 (手だて)

身近な場面において，正直に言えるかどうかやその理由を「考え，議論する」活動をとおして，多面的に捉えさせる。

自分の行為とその結果を具体的に想像して考えさせる。

《八小話し合い活動スタンダード》

「1 目的……④」「2 タイミング……③」

「3 形態……③→⑥」「4 構成……④」

「5 表現方法……①と③」

「6 手だて……①と②」

7. 本時の指導

(1)ねらい【重点観点：考える力（道徳的思考力・判断力）】

自分のした行為とその結果について話し合うことをとおして，うそをついたり，ごまかしをしたりしないで，素直にのびのびと生活しようとする考え方を育てる。

(2)展開 (□のところは「考え方、議論する」場面。)

学習過程	学習活動 (* : 主な発問, → : 予想される児童の反応)	▷ : 留意点, ※ : 支援, ■ : 評価
導入【気づく】	1. 「正直な人」と「よくばりな人」とを想起する。 * 正直な人とは、どんな人ですか。 → うそをつかない人。 * よくばりな人とは、どんな人ですか。 → 何でもほしがる人。	▷ 児童の自然な考えを出させる。
展開1【考える】	2. 教材『金のおの』を読み、正直にすることのよさを確認する。 * 正直なきこりは、なぜ金と銀のおのをもらえたのですか。 → 自分のおのは鉄だと正直に言ったから。 * なぜ、よくばりなきこりは金と銀のおのをもらえず、鉄のおのも返してもらえなかったのですか。 → うそをついたから。 → わざと落としたから。	▷ うそをついたりごまかしをしたりせず、正直に生きること、素直に生きることの大切さについて児童から意見を出させるようにする。 ▷ 補助発問「鉄のおのだと正直に言ったら、金のおのをもらえたのだろうか。」
展開2【生き方や実生活につなげる】	3. 身近に起こり得る場面について話し合う。 * 次のような場面で、あなたは正直に言うことができますか。それはなぜですか。 「友だちとボールであそんでいたら、とてもこわい人がいる家の庭の花をおってしまった。」 → 言える。言わないと叱られるから。相手も困るから。 → 言えない。怒られるかもしれないから。 * 「言えない」という人に、どのような声をかけますか。 → いっしょに行こう。 → やさしい声をかける。 * 正直に言わないと、どのようなよくないことがありますか。 → 怒られる。叱られる。 → 友達がいなくなる。信用されなくなる。 → 気持ちが悪い。すつきりしない。	▷ 正直に言えないこともあるという本音を認める。 ■ 評価の視点⑥⑦ (徳育科の評価の視点) 正直に言える場合も言えない場合も、理由を考えて書いている。(観察、ワークシート) ※ すぐ思いつかない児童には、友達の考えを参考にしてよいことを伝える。
まとめ【深め、広げる】	4. 学習の感想を発表する。 * 今日の授業で学んだことを発表しましょう。 → 正直に言ったほうがすつきりする。 → どんなときでも正直に言えるようにしたい。 → うそをつくと気分がよくないからしないようにする。	■ 評価の視点⑥⑦ うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直にのびのびと生活することのよさについて書いている。(発表、ワークシート)

(3)評価 (育てたい児童の姿) 【考える力 (道徳的思考力・判断力)】

自分の行為とその結果について話し合うことをとおして、うそをついたり、ごまかしをしたりしないで、素直にのびのびと生活することのよさを考えている。

第3学年 徳育科学習指導案

第3学年3組／児童数29名

授業者：主任教諭 **佐久間 周枝**

1. 主題名 大切な命
2. 視点要素 生命尊重〔生命を尊重する態度〕
内容項目 D「生命の尊さ」
3. 学習内容 人間や動植物など生命あるもの全てを大切にしていこうと考えること。
4. 教材名 『ヒキガエルとロバ』
5. 指導観

(1)価値観 (①ねらいとする道徳的価値, ②研究主題との関連についての授業者の捉え方)

学習指導要領における「生命の尊さ」の中学年の指導内容は、「生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。」である。第3学年は、生き物への関心が高まる時期でもあり、動物などの飼育体験をもつ児童も多い。しかし、日常生活において、飼っている生き物に餌をやり忘れたり、自分の興味本位でいたづらをしてしまったりする様子が見られることもある。

本時では、中学年の目ざす「礼節を大切にし、集団の約束やきまりを守り、いじめを許さず温かい人間関係を作り、みんなと一緒に活動することができる児童」（「第八小学校『徳育科』で育てたい児童像」）を育てるために、自分だけでなくその他の生き物にも自分と同じように生命があり、全ての生命を大切にしていくなけりゃ必要性を感じ取らせたい。そして、自分を含め、命あるもの全てを大切にしていこうとする心を育てたい。

(2)教材観 (①あらすじや使用教材の特質, ②具体的な活用方法)

本教材は、自分たちよりも小さく弱い立場のヒキガエルに石を当てて楽しむアドルフたちと、荷車を引いたロバがひかれそうになったヒキガエルを見つけ、力をふりしぼって車輪の向きを変え、ヒキガエルを守る様子が描かれている。ヒキガエルに対する

二者の行動の違いを対比させることで、自分の命だけでなく、身近な生き物など、全ての生命を大切にすることについて考えさせたい。

6. 研究主題にせまるための手だて

(1)本時の指導 (ねらいにせまるためにどのように指導するか)

○役割演技

登場人物の気持ちや「生命の尊さ」について体験的に考えを深めることができる。

(2)本時の評価 (変容や深まりを見取るためにどのように評価するか)

○ワークシートの活用

このお話のよさについて話し合い、友達の意見を聞いて気づいたことを記述させることにより、生命の尊さについてのさまざまな視点の考えを見取る。

(3)他教科等との関連 (実生活につなげるために本時の学習をどのように関連させるか)

理科の生き物単元や日常生活での栽培や飼育活動において、本学習を想起させ、実生活につなげる。《理科・総合的な学習の時間》身のまわりの動物や植物に丁寧に接し、生命を尊重する。

(4)「考え、議論する」ための工夫 (手だて)

「この話のよいところ」について「考え、議論する」活動をとおして、他者の考え方にふれ、新しい気づきを得て、さまざまな視点から「生命」について考えさせる。

①自分の考えをワークシートに書く時間を確保する。

議論するために必要な自分の考えをもつ。

②少人数で議論する。

話を聞きやすいグループで交流することで、主体的に伝え合い、自分の考えを深めることができるようにする。

《八小話し合い活動スタンダード》

「1 目的……③」「2 タイミング……④」

「3 形態……②→⑥」「4 構成……③」

「5 表現方法……③」「6 手だて……①と③」

7. 本時の指導

(1)ねらい【重点観点：考える力（道徳的思考力・

判断力】

どんな小さな生命でも、生命は大切であり、生命
あるもの全てを大切にしていこうとする道徳的判断
力を育てる。

(2)展開 (□のところは「考え方、議論する」場面。)

学習過程	学習活動 (* : 主な発問, → : 予想される児童の反応)	▷ : 留意点, ※ : 支援, ■ : 評価
導入【気づく】	1. さまざまな動物や植物の写真を見て、どのような気持ちになるか発表する。 *身近な動物や植物を見ると、どのような気持ちになりますか。 →かわいい。 →きれい。 →虫は気持ち悪い。	▷さまざまな動物や植物についての写真を見せることで、「ヒキガエル」についてもふれるようにする。
展開1【考える】	2. 教材『ヒキガエルとロバ』を読み、話し合う。 *ヒキガエルに石を投げている時、アドルフたちはどんな気持ちだったでしょうか。 →気持ち悪いから、当ててやろう。 *ヒキガエルが助かった時、アドルフたちはどんな気持ちだったでしょうか。 →ぼくたちはなんてことをしてしまったんだ。 →ロバに大切なことを教えられたな。	▷ヒキガエルに石を当てて楽しんでいる様子を十分に捉えさせる。 ▷ロバが、ヒキガエルの命を守ろうと必死になって行動したことについて考えさせる。
展開2【生き方や実生活につなげる】	3. 生命の大切さについて考える。 *このお話のよいところを話し合しましょう。 →ロバが、自分よりも小さなヒキガエルの命を精いっぱい守ろうとしたところ。 →ヒキガエルをいじめていたアドルフたちが、ロバの行動を見て自分の行動について考えていたところ。 *ロバがヒキガエルを助けた時、ロバやヒキガエルはどんな気持ちだったでしょうか。 <ロバ>ヒキガエルが助かってよかった。この先も元気でがんばってね。 <ヒキガエル>ロバのおかげで命が助かった。本当にありがとう。	※グループで話し合い、さまざまな視点から「生命」について考えさせる。 ▷アドルフとロバの行動の違いについて着目させる。 ▷体験的な学習を行うことにより、登場人物の気持ちや道徳的価値について理解を深めさせる。 ■評価の視点⑦⑧(徳育科の評価の視点) 他者の考え方にふれ、生命の尊さについて、さまざまな視点で考えている。(ワークシート、発言)
まとめ【深め、広げる】	4. ロバの行動から学んだことをまとめる。 *ロバの行動から学んだことは、どんなことですか。 →自分の命も大切だけど、他の生き物の命も大切にしていかなくてはいけない。 →アドルフたちがしていた行動はまちがっていたので、自分はしないようにする。	■評価の視点⑦⑨ 生命あるもの全てを大切にすることについて、自分との関わりで考えている。(ワークシート、発言)

(3)評価 (育てたい児童の姿)【考える力(道徳的思考力・判断力)】

どんな小さな生命でも、生命は大切であり、生命
あるもの全てを大切にしていこうと考えている。

第5学年

徳育科学習指導案

第5学年1組／児童数32名

授業者：教諭 いしはら げん き
石原 元氣

1. 主題名 自他の権利を大切に
2. 視点要素 社会創造[社会の一員としての自覚]
内容項目 C「規則の尊重」
3. 学習内容 約束や社会のきまりについて考え、それらを守ることの大切さについて考えること。
4. 教材名 『図書館はだれのもの』
5. 指導観

(1)価値観 (①ねらいとする道徳的価値、②研究主題との関連についての授業者の捉え方)

学習指導要領における「規則の尊重」の高学年の指導内容は、「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」である。

本時では、「礼節を大切にし、社会のきまりを守りながら、自律的で責任のある行動を取り、主体的に集団や社会にはたらきかけることができる児童」（「第八小学校『徳育科』で育てたい児童像」）を育てるために、自分の権利を主張するだけでなく、自分の果たすべき義務について向き合おうとする意識を高めたい。

(2)教材観 (①あらすじや使用教材の特質、②具体的な活用方法)

本教材は、公共施設である図書館を利用する主人公たちのルールやモラル、マナーに関わる問題を取り上げたものである。そうした話をもとにして、立場の異なる二者が権利を行使し合うことで、互いの権利が対立してしまうような場面について話し合い、解決策を考えることをとおして、義務や権利といった観点から、自他の行動などについて考えを深めたり、それらを尊重したりする心を養いたい。

6. 研究主題にせまるための手だて

(1)本時の指導 (ねらいにせまるためにどのように

指導するか)

○マグネットを使用した立場の視覚化

主体的に自分の意見が述べられるようにする。

○事前アンケートから提示する。

より、実態に合った課題設定をすることで、実生活に生かしやすくする。

(2)本時の評価 (変容や深まりを見取るためにどのように評価するか)

○本時のワークシートによる評価

他者の考えにふれ、法やきまりを守ることの大切さを理解し、自分との関わりについて考えているかを見取る。

(3)他教科等との関連 (実生活につなげるために本時の学習をどのように関連させるか)

具体的な学校生活の場面で本学習を想起させ、実生活につなげる。

《学級活動》図書室の使い方や廊下の歩き方など、自他の権利を尊重した、場に応じた振る舞いをする。

(4)「考え、議論する」ための工夫 (手だて)

「わたしたち」の行動について、個々の立場を明確にし、全体で「考え、議論する」活動をとおして、多面的・多角的に捉えさせる。

①自分の立場を明確にする

自分の立場を明確にすることで、自分の考えをもちやすく、友達の考えと比較しやすくする。

②経験を生かした議論

想像しやすい題材を使用することで、自分の考えをもちやすくする。

《八小話し合い活動スタンダード》

「1 目的……④」「2 タイミング……③」

「3 形態……③→⑥」「4 構成……④」

「5 表現方法……①と③」

「6 手だて……①と②」

7. 本時の指導

(1)ねらい【重点観点：考える力（道徳的思考力・判断力）】

「わたしたち」の行動について「考え、議論する」活動をとおして、約束やきまりについて考え、それらを守ることの大切さについて考えようとする力を

育てる。

(2)展開 (□のところは「考え方、議論する」場面。)

学習過程	学習活動 (* : 主な発問, → : 予想される児童の反応)	▷ : 留意点, ※ : 支援, ■ : 評価
導入【気づく】	1. 身のまわりのきまりについて考える。 *身のまわりにはどんなきまりがありますか。 →交通ルール。廊下は右側を歩く。	▷身のまわりにあるきまりについて想起させることで、価値への導入を図る。
展開1【考える】	2. 教材『図書館はだれのもの』を読み、自我関与する。 *みちおさんたちがしている話を聞いた時、「わたし」はどのような気持ちだったのでしょうか。 →あんなに強く言わなくてもよかったのに。 →静かにしておけばよかった。 *「わたしたち」の行動は、問題だったのでしょうか。 問題だと思う →マナーを守れていなかった。 →図書館は静かに使うというルールが守れていなかった。 →図書館はみんなの迷惑にならないように使わなければならない。 問題ではないと思う →一生懸命だったから仕方ない。 →図書館はみんなの場所だから。 *「わたしたち」は、どのようにすればよかったのでしょうか。 →自分たちだけでなく、だれもが気持ちよく図書館を使えるようにすればよかった。	▷「わたしたち」の言い分を共感的、もしくは批判的に考えさせることをとおして、教材に示された問題を明確に理解させる。 ▷両者の立場から考えることで、「わたしたち」の行動の問題点を明らかにし、たとえ正当な権利の行使であったとしても、マナーや義務の側面からどうすべきかを考えさせる。 ※マグネットを使用して、自分がどちらの立場を指示するか揭示し、明確にさせる。
展開2【生き方や実生活につなげる】	3. 身のまわりにあるきまりの大切さについて考える。 *身のまわりのきまりは、なんのために作られているのか考えてみましょう。 →「廊下を走らない」というきまりは、けがを防ぐためにある。 →「交通ルール」は、交通事故から自分やみんなを守るためにある。 →「優先席」は、みんなでお年寄りや体の不自由な人たちを大切にするためにある。	▷ワークシートに自分の考えをまとめさせる。 ※考えが思いつかない児童には、事前にとったアンケートの中から、身近なきまりを提示する。 ■評価の視点⑥⑦(徳育科の評価の視点) 約束やきまりについて考え、それらを守ることの大切さについて考えている。(ワークシート)
まとめ【深め、広げる】	4. 本時の学習を振り返る。(教師の説話) *約束やきまりを守り、自分の義務を果たし、互いの権利を大切にしていきましょう。	

(3)評価 (育てたい児童の姿) 【考える力 (道徳的思考力・判断力)】

大切さについて考えている。

約束やきまりについて考え、それらを守ることの



第17回

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2019年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2019年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催／教育出版 ◎協賛／日本環境教育学会
◎後援／環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



教育出版

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



四季のある日本

私たちが住んでいる地球。その中でも、私が住んでいる日本には、春夏秋冬という四季があります。その事により、旬の食べ物や、その時期にしか見られない動物や植物がたくさんあります。そして、夏は暑く、冬は寒いといった特徴もあります。
しかし最近では、地球温暖化により、少しずつ季節がくるっているように感じます。
これから先も、地球に住みつづける私たちが、四季を感じながら生きていくには、地球をよごさず、動物や植物を大切にしていける必要があると、ポスターをかけたことにより、あらためて気づくことができました。(小学4年)

小学道德通信 はばたこう明日へ (2019年 春号) 2019年3月31日 発行

編集：教育出版株式会社編集局

印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864(お問い合わせ)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003	札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011	函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011	名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051	広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004	松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007	福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155	那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっとり、配布を許可されているものです。